



# 着実な道路ネットワークの整備と機能向上

## 基本的な考え方

高速道路は、国民生活を豊かにし、経済活動を支える重要な社会資本です。真に必要な道路ネットワークを計画的かつ着実に整備していくことで、輸送コストの削減や、交通事故の減少、バランスのとれた地域社会の発展に貢献していきます。

## 1 高速道路ネットワークの整備

各地域を結び、自動車交通の混雑緩和や地域間の連携強化に寄与しています

高速道路ネットワークの整備は、自動車交通の混雑

2010～2013年度 開通区間

年度	開通区間	延長
2010年度	東九州道 門川～日向	14km
	東九州道 高鍋～西都	12km
	岡山道 総社PA～賀陽(四車線化)	5km
2011年度	舞鶴若狭道 小浜西～小浜	11km
	阪和道 海南～有田(四車線化)	10km
	米子道 久世～上野PA(四車線化)	4km
2012年度	東九州道 都農～高鍋	13km
2013年度	京都縦貫道 沓掛～大山崎JCT	10km
	東九州道 苅田北九州空港～行橋	9km
	東九州道 日向～都農	20km

(注) 2007年度の民営化～2013年度までの累計：170km(四車線化を除く)

緩和や、地域間の交流・連携の強化につながります。

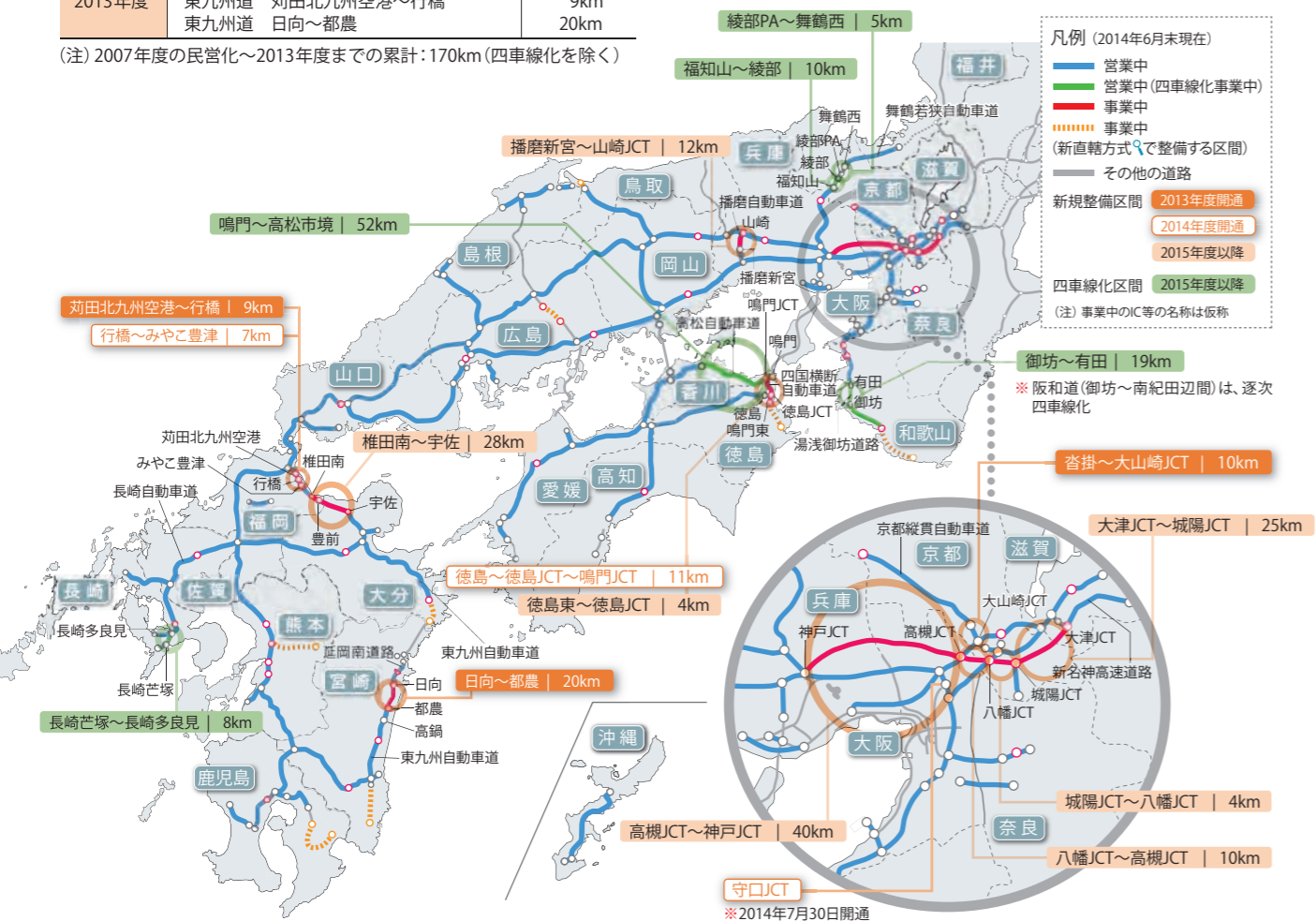
NEXCO西日本は、高速道路機構と締結した協定に基づき、高速道路ネットワークの整備促進に努めています。

2014年度以降の開通予定 ※1

年度	区間	延長
2014年度	四国横断道 徳島～徳島JCT～鳴門JCT	11km
	東九州道 行橋～みやこ豊津	7km
2016年度	新名神 城陽JCT～八幡JCT	4km
	東九州道 椎田南～宇佐※2	28km
2018年度	新名神 高槻JCT～神戸JCT ※3	40km
	高松道 鳴門～高松市境(四車線化)	52km
	長崎道 長崎芒塚～長崎多良見(四車線化)	8km
2019年度	四国横断道 徳島東～徳島JCT	4km
2020年度	播磨道 播磨新宮～山崎JCT	12km
	舞鶴若狭道 福知山～綾部(四車線化)	10km
	舞鶴若狭道 綾部PA～舞鶴西(四車線化)	5km
2021年度	湯浅御坊道路 御坊～有田(四車線化)	19km
2023年度	新名神 大津JCT～城陽JCT	25km
	新名神 八幡JCT～高槻JCT	10km

(注) 事業中区間のIC・JCT名称は仮称  
※1 高速道路機構との協定に基づく。  
※2 会社努力目標は2014年度(豊前～宇佐)  
※3 会社努力目標は2016年度

## 高速道路ネットワークの整備状況



2014年度開通に向けて事業を進めています

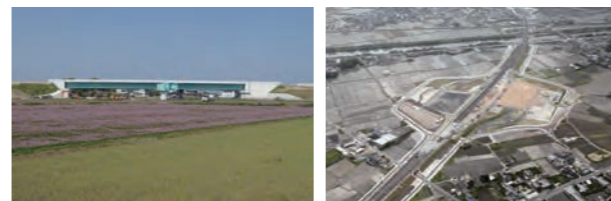
四国横断自動車道の徳島IC～徳島JCT～鳴門JCT間11km、東九州自動車道の行橋IC～みやこ豊津IC間7kmの開通を予定しております。また、東九州自動車道の豊前IC～宇佐IC間21kmについては、会社努力目標

四国横断道 徳島IC～徳島JCT～鳴門JCT



鳴門JCT施工状況 舗装施工状況

東九州道 行橋IC～みやこ豊津IC



井尻川橋施工状況 今川PA(仮称)施工状況

として今年度開通予定で事業を進めております。

これらの区間については、用地取得率が100%となっており、工事を進めています。

東九州道 豊前IC～宇佐IC



伊呂波川高架橋施工状況 切土施工状況

## 2 既存ネットワークの機能向上

既存の高速道路の利用を促進するためスマートICの整備を進めています

高速道路の利便性を向上させるため、スマートICの整備を進めています。スマートICとは、ETC専用の簡易なインターチェンジのことで、ETC搭載車以外は出入りできないものの、一般道路からのアクセス経路が増え、高速道路がさらに利用しやすくなります。

2013年度までに、9カ所のスマートICが開通、現在、さらに16カ所の整備に着手しています。



蒲生スマートIC(名神)

開通したスマートIC

年度	スマートIC名称	設置数
2009年度	土佐PA(高知道)、宮島(山陽道)、府中湖(高松道)、別府湾(大分道)	4カ所
2010年度	宮田(九州道)	1カ所
2011年度	大山高原(米子道)	1カ所
2012年度	大和まほろば【名古屋方面】(西名阪道)	1カ所
2013年度	蒲生(名神)、大和まほろば【大阪方面】(西名阪道)、宇城氷川(九州道)	3カ所

(注) 2007年度までに7カ所設置

スマートICの設置予定 ※1

完成予定年度	スマートIC名称	設置数
2014年度	松茂※2(四国横断道)、今川※2(東九州道)	2カ所
2015年度	夢前(中国道)、北熊本(九州道)、城南(九州道)	3カ所
2016年度	上毛※2(東九州道)、山之口SA(宮崎道)、由布岳PA(大分道)、門川南(東九州道)	4カ所
2017年度	木場(長崎道)、小城PA(長崎道)、福山SA(山陽道)、桜島SA(九州道)	4カ所
2018年度	宝塚北※2(新名神)、和歌山南(阪和道)	2カ所
2019年度	国富(東九州道)	1カ所

(注) スマートIC名称および未開通区間の道路名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく。

※2 事業中の本線と同時供用

# TOPICS

### 東九州自動車道の苅田北九州空港IC～行橋IC間と日向IC～都農IC間が開通、地域の活性化、発展に貢献します

2014年3月23日に、東九州自動車道の苅田北九州空港IC～行橋IC間9kmと、2014年3月16日に日向IC～都農IC間20kmが開通しました。

広域的なネットワークを形成し、アクセスの向上が図られ、一般国道の利用と比べて所要時間の短縮、第三次医療施設への搬送時間の短縮など救急医療活動への貢献、地域産業などへの活性化が期待されています。



苅田北九州空港IC～行橋IC間開通式



日向IC～都農IC間開通パレード

## 1 防災体制の強化

災害発生時にも、迅速に道路を復旧する体制を整えています



## 2 地域・他機関との連携の強化

自治体や自衛隊と協定を結び、災害時の円滑な対応や情報の共有に備えています



## 3 災害への備えの強化

実践的な防災訓練や資機材の備蓄強化で、万が一に備えています



### 基本的な考え方

高速道路への国民の信頼に応えるため、「想定を超えた広範囲の激甚災害にも対応できる仕組み」を構築します。発災時には速やかに高速道路機能を回復し、被災地域の救急・復旧・復興に貢献します。防災対策をより実効性の高いものへ逐次見直し、不断の努力を続けていきます。

## 1 防災体制の強化

### 道路機能を迅速に回復できるよう防災体制を強化しています

防災体制を運用するためには、情報の収集・発信拠点となる「災害対策本部」を災害規模に応じて設置し、高速道路の早期復旧に向け、指揮統制を図ることが重要です。

2013年度までは災害発生時に一般電話等が使用できなくなることが想定される拠点に衛星携帯電話の導入を進めるとともに、SA・PAなどに一時避難されたお客さまに対する防災備蓄品(水・衛生用品など)などの整備に着手しました。また、上空から被災状況を点検できるよう、民間ヘリ会社と2014年4月1日から契約を締結しています。

## 2 地域・他機関との連携の強化

### 包括協定・災害協力協定・連携協定に基づく連携強化を図っています

地域住民の安全・安心の向上を図るため、管内の府県・政令市に対し、地震など大規模災害時の相互協力を定めた災害協力協定の締結を推進し2012年5月末までに西日本の全24府県と締結しました。

また、陸上自衛隊とは、大規模災害時の迅速な緊急交通路確保と連携した被災地支援を目的に、連携協定を締結するとともに、具体的な連携内容の調整、合同訓練などに取り組んでいます。さらに、自衛隊が保有するヘリコプターからの映像を活用する協定を締結するなど、災害時に備えてさまざまな連携強化を進めています。

#### 自治体と協定を結んだ一時避難場所

年月	自治体	一時避難場所
2011年8月	徳島県・徳島市	四国横断道 徳島IC～鳴門JCT
2012年4月	西都市・新富町	東九州道 西都IC
2012年7月	高鍋町	東九州道 高鍋IC～都農IC
2012年7月	須崎市	高知道 須崎東料金所
2012年9月	観音寺市	高松道 豊浜SA
2012年9月	日向市	東九州道 日向IC～都農IC
2012年11月	門川町	東九州道 門川IC
2013年11月	金武町	沖縄道 伊芸SA
2014年2月	徳島市	徳島道 徳島IC

## 3 災害への備えの強化

### 災害対応計画の継続的な見直しを行っています

2013年度までに、本社・支社・事務所において、被害想定に基づく、より実効性のある災害対応計画への見直しを実施しました。また、災害発生時を見越した必要な資機材等の事前の備えや訓練等を通じ、関係機関との連携強化を図りました。2014年度は、訓練などによって得られた課題について対策を講じるとともに、早期に道路機能を復旧できるよう、災害対応計画を実効あるものとすべく、継続的に見直しを行います。

### 実践的な防災訓練を実施しています

地震など自然災害の発生時に迅速かつ確かな対応ができるよう、グループ全体で計画的に防災訓練を実施し



トンネル内での防災訓練の様子  
(上)救出  
(下)滞留車両排除



### 社外コメント

#### 長大トンネル内での事故発生時における対応について、理解と連携を深められました



人吉下球磨消防組合 消防長 富田 清一 様

安全で安心な地域づくりの一環として、NEXCO西日本とは2004年以降、九州自動車道の長大トンネルで事故を想定した協働訓練を実施しています。2013年度は、加久藤トンネル下り線内で車両火災事故を想定した訓練を実施し、事故対応や非常用設備について、警察、消防、NEXCO西日本など関係機関とともに理解を深め、連携の確認ができました。実地訓練は調整が難しく頻繁に行えないため、こうした機会を設けていただき感謝しています。今後もいっそうのご協力を賜りますようお願いいたします。

### 社員コメント

NEXCO西日本

#### 地元関係機関と災害に丸くなって対応できる関係づくりに努めていきます



九州支社 熊本高速道路事務所 統括課 中居 陽子

トンネルが連続する九州道・八代IC～人吉IC間では、ソフトとハードの両面で、防災力強化を図っています。2013年度は、10年ぶりに加久藤トンネルで、地元の警察、消防、レッカー各社、管理隊などと協力し、大規模な総合防災訓練を実施しました。訓練自体も有意義でしたが、各関係機関と十数回に及ぶ打合せで顔の見える関係づくりができたことは大きな成果だったと実感しています。訓練を通じて築いた関係をさらに密なものにし、地域全体で100%の安全・安心の提供に取り組んでいきたいと考えています。

## 1 技術・ノウハウの活用による事業の展開

開発途上国の高速道路開発を支援するコンサルティング事業を展開しています



道路PPP事業の案件形成に取り組んでいます



橋梁点検技術提供の場を更に増やすことを目指しています



品質向上のための技術アドバイスの様子(フィリピン)



米国在住スタッフとの点検機器操作の訓練(アメリカ)

## 3 人材育成・技術移転を通じた国際貢献

専門家を派遣して開発途上国の技術者育成にあたっています



海外研修生の受け入れやNPO法人の支援など国際貢献活動を行っています

## 2 海外との技術交流や情報発信

国際会議に参加して、情報収集・技術交流を行っています

### 基本的な考え方

NEXCO西日本グループビジョンである「自立」と「成長」を実現するため、海外道路事業へ参画し、企業競争力の向上、新たな価値の創造に挑戦します。また、高速道路の建設、維持管理に関する当社グループのノウハウや技術力、人材などを海外で活用することで、現地のインフラ整備と技術の向上に貢献しています。

の市場把握に努めました。

2014年度は、JEXWAYや日系企業ならびに現地企業と協働で、道路PPP事業案件への参画を目指し、これまで蓄積した技術やノウハウを活用することで、海外の道路の安全性や快適性の向上に貢献するとともに、海外の先端技術をフィードバックすることにより、国内業務との相乗効果を増大していきます。

※ PPP事業(Public Private Partnership 官民連携): 民間の資金や経営・技術力などのノウハウを活用し、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図る事業手法。

## 1 技術・ノウハウの活用による事業の展開

### アジア・北米地域における道路PPP事業への参画を目指しています

NEXCO西日本は、2011年に高速道路会社5会社が共同で設立したJEXWAY(日本高速道路インターナショナル(株))と協働で、アジア・北米地域での道路PPP事業※への参画を目指しています。

2013年度は、駐在員事務所のあるインドネシアで事業化に向けた情報収集と案件調査を実施しました。高速道路を運営する現地企業と連携について意見を交換し、ビジネスチャンスを模索中です。北米では、道路運営会社や政府系機関と協議し、国際会議に参加することで人脈形成や情報収集を行い、道路PPP事業

### 途上国の高速道路運営を支援するコンサルティング業務を実施しています

アジア地域を中心とした開発途上国において、高速道路に関する開発プロジェクトコンサルティング業務にも取り組んでいます。

2013年度は、インドネシアにて、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募する「都市域の渋滞緩和に向けたITS<sup>®</sup>導入可能性に係る現状分析調査」についてのコンサルティング業務の採択を受けました。この調査を通じ、当社のITS技術を活用して一般道から高速道路への転換を図り渋滞を解消することにより、二酸化炭素の削減効果が期待されています。また、フィリピンでは現地の技術者が道路構造物を点検する際のチェックポイントを記した

ハンドブックの作成のほか、橋梁の建設や維持に係る品質管理の向上につながる技術アドバイスをを行っています。

2014年度は、引き続き現地コンサルタント会社などと提携し、技術提案や試験施工を通して、さらなる受注を目指します。

### 米国での橋梁点検事業に参画しています

2011年1月にワシントンD.C.に子会社NEXCO-West USA, Inc.を設立し、当社グループの保有技術である、ハイビジョンカメラや赤外線カメラを用いた非破壊橋梁点検事業に取り組んでいます。

米国内では実績のない新技術のため、これまでフロリダ、メリーランド、バージニアの各州政府に対して試験施工を行うなど、積極的な営業活動を展開し、技術の優位性や信頼性の評価獲得に努めています。その結果、2012年度はインディアナ州の橋梁点検業務を初めて受注し、2013年度はフロリダ州の民間の施設の点検業務を受注しました。

2014年度は現地コンサルタント会社などと継続して提携し、技術提案や試験施工を通して、さらなる受注を目指します。



インディアナ州の橋脚点検業務施工現場

## 2 海外との技術交流や情報発信

### 国際会議に積極的に参加し、技術のPRや交流に努めています

当社グループの技術のPRや、海外の高速道路技術などの情報収集、技術交流を目的として、国際会議に積極的に参加しています。

2013年度は、3つの国際会議に出席し、高速道路の建設や維持管理、事業継続計画などについて論文発表しました。



国際会議での発表

### 2013年度の国際会議参加実績

PIARC(世界道路協会)	道路の建設、改良、維持、利用技術等、道路技術・行政の向上とこれによる経済的発展を目指す
REAAA(アジア・オーストラレイシア道路技術協会)	アジア・大洋州地域における道路技術とその専門家の知見と実践を普及・増進することを目指す
ITS世界会議	技術開発や政策などの情報交換、ITS普及による交通問題の解決などを目的とした世界会議

## 3 人材育成・技術移転を通じた国際貢献

### 海外研修生の受け入れやNPO法人支援などの国際貢献活動を実施しています

国際貢献の一環として、海外研修生の受け入れや途上国支援に取り組んでいるNPO法人を支援しています。

2013年度は、国土交通省やJICAなどと連携し、アジア、アフリカを中心とした開発途上国約43カ国から146人の研修生を受け入れ、計16回の研修を通して当社グループの高速道路建設・維持管理に関するノウハウや技術を指導し、交流も行いました。また、2009年から、開発途上国で土のうを用いた道路改良などに取り組むNPO法人「道普請人」の活動に対する支援を継続しています。

さらに、インドネシア国家土地庁長官らによる視察支援を通じ、効率的な用地取得について活発に意見交換しました。

### 開発途上国の技術者育成に貢献するため、国際協力機構(JICA)長期専門家を派遣しています

当社グループでは、国際貢献の一環として、現地技術者の人材育成を目指して、社員をJICA長期専門家として派遣しています。JICA長期専門家とは、国際協力機構(JICA)の事業によって派遣され、高度な知識を持って開発途上国の支援にあたる技術者で、派遣期間は1年以上に及びます。

2014年度も、引き続き、JICA長期専門家を派遣していきます。

### 2013年度の主な取り組み

派遣先	支援内容	人数	期間
モザンビーク	道路計画・工事、維持管理の能力向上の支援	1	2011年8月～2014年8月

### 社員コメント

NEXCO西日本

### 母国インドネシアに高速道路事業への参画を通じ貢献できる喜びを感じています



海外事業部  
インドネシア  
駐在員事務所  
スギオノ

私は、日本の建設会社がアルジェリアの高速道路の建設事業に参画した際、インドネシア人のまとめ役兼通訳を担ったことや、インドネシアの日系旅行代理店等での通訳経験などを活かし、現地の高速道路会社や政府関係者等との連絡、折衝などに携わっています。日本人同様、インドネシア人も人間関係を重視するため、業務にあたっては、困った時に頼りにしてもらえそうな関係づくりを心がけています。NEXCO西日本の提案によって、母国インドネシアの高速道路の課題の解決策が導き出されていく時には、自分もその一員であることに、誇りとやりがいを感じます。